

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">譚 娟</p> <p style="text-align: center;">【比較社会文化学専攻 平成25年度生】</p>	要 旨
論文題目	<p style="text-align: center;">「満洲国」における中国人女性の行為選択の主体性 ——ジェンダー秩序の変動から見る</p>	<p>近代東アジアの女性史は近年研究が活発化している分野であるが、「満洲国」については従来、民族運動史や文学史の中の個別の女性の抗日運動や文学活動を取り上げる傾向が強く、より広範な社会諸階層の女性たちの日常生活に対する関心は希薄であった。それに対し本論文では、満洲国の植民地統治政策下における中国人女性の日常的活動を取り上げ、政策と女性たちの対応との相互作用による満洲国のジェンダー秩序の変容を解明することを課題とした。その際、「行為選択の主体性」(agency) という語をキーワードとして、抵抗か従属かという二分法を超え、植民地支配下の女性の対応とジェンダー秩序の変化を内在的に理解することを目指した。</p>
審査委員	(主査) 教授 岸本 美緒	<p>内容は大きく三部に分かれる。第一部では、満洲国のジェンダー政策の事例を検討した。第一章では、満洲国政府の教化政策を担った『盛京時報』の女性向け文芸欄に見られるあるべき女性像を、職業女性、主婦、女子学生の各層に分けて検討し、第二章では、満洲国成立前後の女子教育政策の変遷を論じ、吉林省立女子師範学校を例として、その教育内容や校友会活動を検討した。</p> <p>第二部は、植民地統治政策下の女性たちの主体的選択の諸事例を取り上げた。第三章では、奉天省女子師範学校の校友会誌に見られる女子学生の女性問題観を分析し、彼女らが教育における満洲国国家意識の強調を利用する形で女性問題の解決を目指したことを指摘した。第四章では、『盛京時報』や『麒麟』等の新聞・雑誌のインタビュー記事に見られる職業女性の実践と職業観を分析し、第五章では、産業開発のため女性労働力の動員が進む中での、近代工業で働く女工たちの行為選択の状況を、転職やストライキを例に論じた。</p> <p>第三部では、直接的史料の少ない農村女性の職業上・生活上の選択を間接的に示す事例として、農村大家族の分家及び家計管理の変化(第六章)と、親属継承法立法過程で行われた慣行調査や民間意見聴取結果(第七章)を取り上げ、そこに反映されるジェンダー秩序の変容を指摘した。</p> <p>全体を通じ、中国人女性が満洲国の教化政策や経済統制政策を主体的に利用しつつ、日常的行為選択を通じてジェンダー秩序の変容をもたらしたことを論じた。</p>
	教授 三浦 徹	
	教授 米田 俊彦	
	教授 足立 眞理子	
	助教 湯川 文彦	